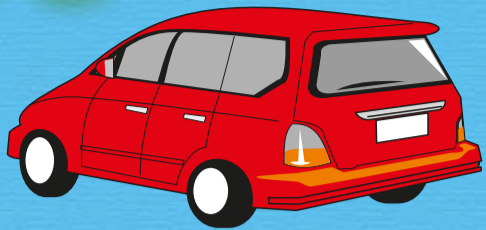


カー



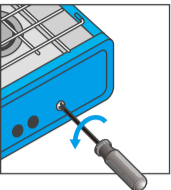
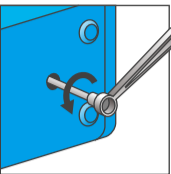
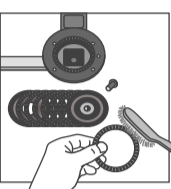
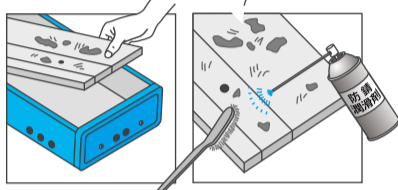

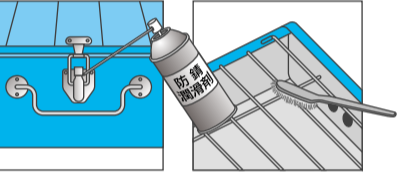
&

レジャー



ツバーナーストーブ

吹きこぼれた汚れをそのままにしておくと、カビやサビの原因になります。シーズンオフの前には分解して、すみずみまできれいに掃除しましょう。分解方法はメーカーによって多少異なりますので、説明書にしたがってください。

- 1 両サイドにあるプレートをとめているネジをはずす。

- 2 本体の裏にあいている穴に延長ロッドをつけたソケットレンチを差し込んで、バーナーをプレートにとめているネジをはずす。延長ロッドがない場合は、上部から手を入れて少しずつネジを緩めていくようにする。ネジがはずれたら、バーナー、プレートが分解できる。

- 3 バーナーは、センターにあるネジをはずせばリングをすべて分解することができる。分解したリングは、すべて潤滑油をスプレーしながらワイヤーブラシでサビと汚れを落とし、波形と平型のリングを交互に組んで元通りに装着する。ツバーナーの場合、メインのバーナーとサブのバーナーではリングの数が違うので、メモを取るなどして間違わないように注意を。

- 4 プレートの汚れを落とし、サビた部分は潤滑油をスプレーしてワイヤーブラシでこする。

- 5 本体の底についている汚れをふき取る。汚れが頑固な場合は、油汚れに強い住宅用洗剤をスプレーしてしばらくおいて、汚れを浮かせてから拭くとよい。その際は、必ず2度拭きを。

- 6 蓋を本体にとめるクリップ部分やちょう番のサビもきちんと落とし、最後に潤滑油をスプレーしておく。また、グレート汚れもワイヤーブラシなどできちんと落とす。


※ホワイトガソリンタイプを、シーズンオフなどに仕舞う場合は、タンク内の燃料を抜くのを忘れずに。

アウトドアグッズのメンテナンス

One Point Advice

テント、タープの洗いか

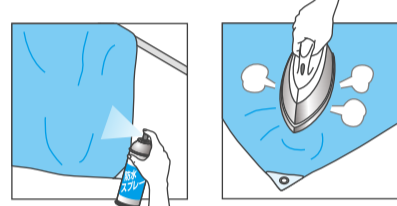
地に撥水加工が施されているので、原則的には汚れのひどい部分だけを洗うほうがよいのですが、全体的にひどく汚れてしまった場合は、浴槽を使って洗うと手軽です。

ぬるま湯を入れた浴槽に洗剤を入れ、テントやタープを入れ、浴槽の生に腰をかけて足で押し洗分をする。汚れがひどい箇所はブラシなどでこすり洗す。その後念入りにすすぎ、浴槽の縁にかけながら水気を切ってから、トヤペランダなどで陰干しする。



完全に乾いたら、生地の上に撥水スプレーか防水スプレーを生地がしっとりするくらいスプレーする。スプレーが乾いたら、スプレーした面に低温にセットしたアイロンをかけてスプレーの定着がよくなる。

庭に21と

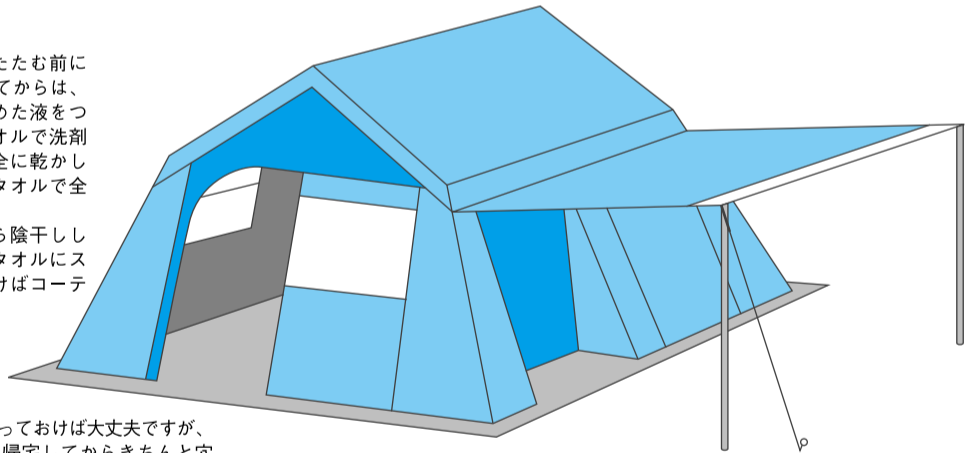


テント、タープ

●通常の手入れ

雨が降らなくても露で濡れるので、現地ですぐにできる乾燥させておきましょう。持ち帰ってからは、土や汚れがついている箇所を中性洗剤を薄めた液をつけたタオルで拭いてから、水で濡らしたタオルで洗剤分をよく拭いたあと、再度、陰干しして完全に乾かします。シーズン最後のときは、固く絞ったタオルで全体を拭くとよいでしょう。


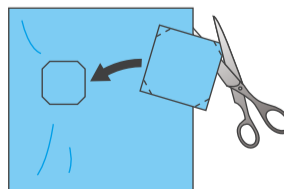
ポールはついた泥や土をきちんと拭いてから陰干しして湿気を完全にとります。その後、乾いたタオルにスプレー式潤滑油をつけてポールを磨いておけばコーティングの持ちがよくなり、腐食が防げます。



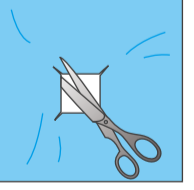
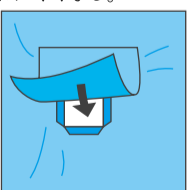
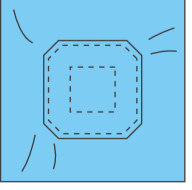
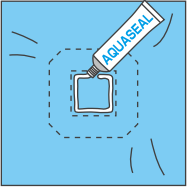
●破れたら

現地では、応急処置として布製ガムテープを貼っておけば大丈夫ですが、長くは持ちません。次のキャンプに備えて、帰宅してからきちんと穴を塞いでおきましょう。

《小さな破れ》

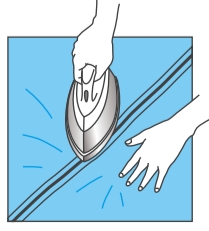
- 1 破れの周囲をきれいに拭く。このときランタンなどの熱で溶けている場合は、縮れた部分も切り取る。

- 2 テントやタープの補修に使えるリペアテープ（補修用パッチ）を用意し、破れより2まわりほど大きめにカットする。リペアテープには、裏紙がついていて、それをがせば接着できるタイプと、専用の接着剤で貼るタイプがある。どちらもカットする際、4隅を丸くカットしておくとはがれにくくなる。


《大きな破れ》

- 1 小さな破れと同じように破れた部分をカットした後、縫い代分の切り込みを入れる。

- 2 縫い代を折って、リペアテープを生地の表面に貼る。このとき、完全に貼り付ける前に、リペアテープの4隅をカットしておくとはがれにくくなる。

- 3 ミシンで穴の周囲と、リペアテープの周囲を縫う。糸はナイロンのカタン糸を使う。

- 4 補修した生地裏側にアクアセール（防水剤）を塗って、ヘラで伸ばす。乾くまで、約10時間はそのままにしておく。


シームテープがはがれかけたら

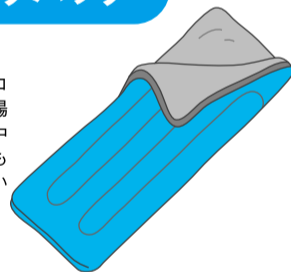
縫い目部分の水の侵入を防ぐために貼ってあるシームテープは、長く使っている間にはがれてきます。これをそのままにしておくと水が染みてくるので早めに処置をしましょう。方法は、低温にセットしたアイロンを軽く当てると簡単。はがれや浮きが多い場合は、当て布をして強めに当ててください。その際、シームテープが縮んでいたら生地を引っ張りながらアイロンをかけます。



スリーピングバッグ

●通常の手入れ

ファスナーを開いてホコリを払い風通しのよい場所で陰干しします。中綿に入り込んだホコリも落とすよう、軽くたたいてください。



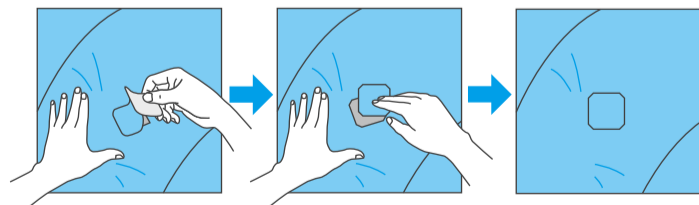
●シミがついたら

食べ物や飲み物をこぼしたような場合は、早めにシミ抜きを。汚れた箇所の生地だけをつまみ、薄めた中性洗剤を染み込ませたタオルで汚れをつまむようにして落とします。汚れがひどい場合は、歯ブラシなどを使うのも手。ただ、あまり強くこすると生地を傷めるので気をつけましょう。水で濡らしたタオルで洗剤分をしっかりと落とし、日陰でしっかり乾かしてください。



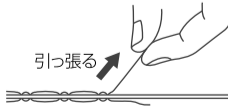
●小さな穴があいたら

テント、タープの破れと同様に、リペアテープを使って穴をふさぐことができます。中綿が入っているので、テープを貼る時にシワが寄らないように注意。貼ったあと、シールの裏紙などを利用して擦るとしっかりと接着します。補修後は、すぐに収納せず、補修箇所に負担がかからないようしばらく放置してしっかりと接着させるようにします。



●糸がほつれたら

ステッチから糸が飛び出してきたのを見つけたら、すぐに処理しないと、ほつれがどんどんひどくなるので注意しましょう。

- 1 飛び出した糸を軽くひっぱる。

- 2 ひっぱった上糸に下糸が引っかかっていたら、上糸と下糸をしっかりと結び、ほつれた糸の量が少なければ、この処理だけでもしばらく問題ない。
